

令和6年（2024年）9月定例会・一般質問

【経験したことのない暑さへの対策について】

◆大川秀徳

気象庁の発表で、今年の7月は、7月として日本の観測史上最も平均気温が高かった。地球沸騰と注目された2023年の暑さを上回り、2年続けて過去最高を更新しており、来年以降も上がり続けるのではないのでしょうか。

市民、特に子供を熱中症から守るため、以下3点を伺います。

- 1、児童・生徒への給水の状況はどうでしょうか。
- 2、小・中学校の特別教室のエアコン設置の現状はどうでしょうか。
- 3、小・中学校の体育館へのエアコン設置を早急に推進していくべきではないでしょうか。

◎教育部長

暑さ対策につきまして、年々、厳しい暑さが増すここ数年の夏でございますが、こうした中でも、児童生徒の安全安心な学習環境を提供していくことが、私ども教育委員会の大切な役割であると考えております。

さて、1点目のご質問、児童生徒への給水の現状についてでございますが、各学校においては、児童生徒に対して、お茶などの十分な量の水分を水筒で持参し、適切に水分補給をするように指導しており、休み時間をはじめ、必要があれば授業中などにおいても水分補給をすることを認めているところでございます。

また、各学校の対応といたしまして、持参した水分の不足に備え予備の水分を用意したり、保健室や職員室に経口補水液を準備したり、あるいは体を冷やすための保冷剤を準備する等の対策に努めているところでございます。

次に、2点目のご質問、特別教室へのエアコン設置の状況でございますが、特別教室のうち図書室やコンピューター室については以前からエアコンを設置しており、また、音楽室につきましては、令和4年度にコロナ臨時交付金を活用し全13小中学校への設置を完了しております。これら以外の理科室、美術室、家庭科室などについては、小学校で87教室、中学校で64教室、合計151教室が未設置の状況でございます。今後の課題となっております。

次に、3点目の学校体育館へのエアコン設置につきましては、災害時の避難所としての活用のほか、学校現場における体育の授業や各種行事、部活動など、様々な教育活動を行う上での熱中症対策として、以前から校長会の要望も提出されているところで、現在、先進事例の調査研究やより効果的な事業手法の検討を進めているところでございます。

一方で、全小中学校への整備となりますと10億円規模での事業費が必要となってまいりますので、財源の確保やほかの事業との優先度など、市全体としての判断が求められるものと考えております。

教育委員会といたしましては、関係課とも協議しつつ、引き続き予算化に向けた検討を深めてまいりたいと考えております。

なお、本件については、先ほど同趣旨のご質問に対して、市長から具体的な答弁がありましたので、今後については、市長の答弁に沿って、取組を進めてまいります。

【常滑東小学校周辺の道路について】

◆大川秀徳

常滑東小学校の児童数は県下でも最も多く、1,100人を超え、大半が飛香台から通います。常滑東小学校は狭い道路に囲まれており、車が擦れ違いにくく、特に雨天時や荒天時には送迎の車で周辺道路の渋滞や近隣店舗への迷惑駐車が発生してしまいます。学校は保護者へ情報発信専用アプリで周知をしますが、効果は十分でないと思います。

そこで、以下2点を伺います。

- 1 1 目、常滑東小学校の西門前の道路や新瀬木橋の拡幅はできないでしょうか。
- 2、常滑東小学校のグラウンドの一部を改良し、駐車場を増やせないでしょうか。

◎建設部長

まず、常滑東小学校の西門前の道路でございますが、西門から北は幅員4.4メートルの車道に加え、1.6メートルの歩道が設置されており、また、西門から南は歩道のない車道幅員3.8メートルの市道となっております。

新瀬木橋については、橋長が35メートル、幅員が4メートルで、市道瀬木線をまたぐ形で架けられた橋梁でございます。

近年、車両も大型化しており、幅員が6メートル以上であれば、車同士が余裕を持って擦れ違えることができるものの、議員ご指摘のように当該箇所では容易に擦れ違えることは難しい状況でございます。

さて、道路及び橋梁の拡幅についてでございますが、西門前の道路については、道路西側が民有地と瀬木区の墓地用地で、高低差のあるのり面となっていることから、拡幅するには用地取得と道路擁壁の築造が必要となります。道路東側については学校用地でございますが、西門を起点として高低差が大きくなっており、北側は擁壁、南側はのり面で構成されていることから、拡幅するには西側同様に道路擁壁の築造や学校用地が減ることなども課題となっております。

また、新瀬木橋の拡幅についてでございますが、現在の橋梁を拡幅する場合も架け替える場合も拡幅する部分の上部工の架設はもとより橋台も新たに築造する必要があることや、橋に取り付く前後の道路も同程度の幅員しかないことから、新たな用地の取得も必要となり、大きな事業費がかかってまいります。

このように、用地確保や事業費の面で様々な課題がございますことから、ご質問の常滑東小学校周辺の道路及び橋梁の拡幅については、難しいものと考えております。

◎教育部長

現在、常滑東小学校の駐車場につきましては、来校者分と教職員分を合わせて東側に25台、西側に40台、合計65台分の駐車場を確保しておりますが、余裕がある状況ではなく、保護者に対しましては特別な事情を除き自家用車による送迎は控えていただくようお願いをしております。

また、授業参観や保護者面談などがある場合には、晴天時であればグラウンドを臨時的駐車場として開放するなど工夫しながら対応できておりますが、荒天等で緊急的かつ集中的に多くの保護者が車で来校されることは、施設的に受入れや対応が不可能な状況でござ

います。

こうした中で、仮に年に数回程度の大雨や台風等荒天時に対応するため、グラウンドを縮小して駐車台数を増設いたしますと、南館の増築により以前よりも手狭になったグラウンドがさらに狭くなり、日常の学習利用や運動会等の行事に制限や支障が生じることが想定されることから、今のところ駐車場を増設することは考えておりません。

一方で、台風など災害レベルの荒天時における児童の安全確保は何よりも優先すべき課題でございますので、天候の見通しなどに応じた安全な時間帯での早帰りや、逆に危険が生じるおそれがあればしばらく校内にとどませるなど、判断のタイミングやその対応、また保護者との情報共有について、引き続き間違いのない対応に努めてまいりたいと考えております。